

## 平成28年中の山岳遭難発生状況

平成28年中の山の事故は57件発生し、2の方が亡くなりました。

特徴として、

- 遭難態様別では、遭難者73人中、半数以上が「道迷い」38人（52%）である。
  - 発生場所別では、発生件数57件中、鈴鹿山系での発生が40件（70.2%）を占める。
- などが挙げられます。

### 〈 県全体発生状況 〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		57	61	－ 4
遭難者数 (人)	死 者	2	9	－ 7
	行方不明者	1	1	0
	負 傷 者	28	21	7
	無事救出	42	49	－ 7
	合 計	73	80	－ 7

### 〈 鈴鹿山系発生状況 〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		40	36	3
遭難者数 (人)	死 者	1	4	－ 3
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	21	15	6
	無事救出	29	30	－ 1
	合 計	51	49	2

### ※ うち御在所岳発生状況

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		13	13	0
遭難者数 (人)	死 者	1	1	0
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	8	5	3
	無事救出	7	13	－ 6
	合 計	16	19	－ 3

〈台高山系等発生状況〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		6	14	- 8
遭難者数 (人)	死 者	1	4	- 3
	行方不明者	1	1	0
	負 傷 者	4	5	- 1
	無事救出	0	4	- 4
	合 計	6	14	- 8

〈その他山系(山城)発生状況〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		11	11	0
遭難者数 (人)	死 者	0	1	- 1
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	3	1	2
	無事救出	13	15	- 2
	合 計	16	17	- 1

〈態様別遭難者数〉

年	態 様								計
	道迷	滑落	転倒	転落	疲労	病気	落石	その他	
28年	38	18	6	4	5	0	1	1	73
27年	44	15	4	8	5	2	0	2	80
前年比	- 6	3	2	- 4	0	- 2	1	- 1	- 7

〈年齢別遭難者数〉

( )は前年比

項目 年齢	人 員		前年比	り 災 別 人 員				
	28年	27年		死者	行方不明者	重傷	軽傷	救助
0～9	1	0	1	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
10～19	1	8	- 7	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(-7)
20～29	9	8	1	0(0)	0(0)	0(0)	1(-1)	8(2)
30～39	13	14	- 1	0(-1)	0(0)	3(1)	1(1)	9(-2)
40～49	9	9	0	0(-1)	0(0)	1(0)	3(2)	5(-1)
50～59	13	13	0	0(-4)	1(1)	3(2)	5(3)	4(-2)
60～69	15	22	- 7	2(0)	0(-1)	4(0)	3(-2)	6(-4)
70～79	11	6	5	0(-1)	0(0)	1(-2)	2(2)	8(6)
80～	1	0	1	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)
計	73人	80人	- 7	2(-7)	1(0)	12(1)	16(6)	42(-7)

〈 月別発生状況 〉

( )は前年比

項目 月	件数	遭難者数				
		死亡	行方不明	負傷	救助	
1	4( 2)	6( 4)	0(-1)	0( 0)	0(-1)	6( 6)
2	4( 0)	4( 0)	0(-1)	0( 0)	3( 1)	1( 0)
3	5( 0)	9( 2)	0(-1)	0( 0)	2( 0)	7( 3)
4	3(-6)	3(-11)	0(-1)	0( 0)	2(-1)	1(-9)
5	9( 2)	10( 2)	0(-1)	0( 0)	7( 4)	3(-1)
6	1(-6)	1(-6)	0(-2)	0( 0)	0(-1)	1(-3)
7	3(-2)	3(-2)	0( 0)	0(-1)	2( 1)	1(-2)
8	4( 2)	4(-3)	1( 1)	0( 0)	1( 1)	2(-5)
9	5( 2)	8( 5)	0( 0)	0( 0)	2( 1)	6( 4)
10	10( 2)	16( 6)	0(-2)	0( 0)	4( 0)	12( 8)
11	7(-1)	7(-2)	1( 1)	0( 0)	4( 1)	2(-4)
12	2( 1)	2(-2)	0( 0)	1( 1)	1( 1)	0(-4)
計	57(-4)	73(-7)	2(-7)	1( 0)	28( 7)	42(-7)

〈 山岳遭難防止のお願い 〉

- \* 自分の体力や経験に応じた山やコースを選びましょう。
- \* 早朝から登山を開始し、お昼過ぎには下山するなど、時間に余裕のある計画を立てましょう。
- \* 単独登山はなるべく避け、グループ登山に心掛けましょう。
- \* 体調が悪いときや危険を感じたら、無理をせず引き返しましょう。
- \* 山の天候は変わりやすいので、気象情報に注意しましょう。
- \* 万一に備え、雨衣や非常食等を携行しましょう。
- \* 通信手段として充電の完了した携帯電話等を携行しましょう。(携帯電話は通話できない場所があることに注意)

〈 鈴鹿山系を登山される皆さんへ 〉

三重県内での山岳遭難の約半数近くが、鈴鹿山系で発生しています。

鈴鹿山系の山々はハイキング気分で登れる山ではありません。特に、御在所岳はロープウェイを活用し簡単に登れそうに思えますが、登山道は何れも険しく、体力も必要とします。御自身の体力、技術にあった山を選び、しっかりした登山装備を準備し、なるべく単独登山を避け、グループでの登山に心掛けましょう。



〈 山岳警備隊による訓練状況 〉